

モジュール2

美術館キュレーション視点による作品の構造解析

【ワークの目的】

感性や「美しさ」という曖昧な評価基準を卒業し、学芸員が重視する「構造（構図・技法・背景）」として自身の作品を解体・再構築します。そこにプロの目利きにも評価される「論理的な価値」と「文脈（コンテキスト）」を宿らせる技術を習得します。

【Q1：仕組みによる意識の書き換え】

（AIワーク1：作品の構造解体と価値抽出の結果を受けて）

AIが学芸員の視点で、あなたの代表作を「構図」「マテリアル」「独創性」という客観的な構造として分析した結果を読み返してください。

- これまで、自分の作品が正当に評価されない理由を「運」や「好みの問題」だと思い込み、フラストレーションを抱えていませんでしたか？ それはどんなフラストレーションでしたか？
- AIが提示した「プロの目利きが評価しうるポイント」を客観的な事実として突きつけられたとき、あなたの「才能に対する不安」はどう変化しましたか？
- 感性という言葉の裏側に隠れていた、あなたの作品を支える「確かな技術と構造」をプロとして直視したとき、明日から自作を語る際の「言葉の強さ」はどう変わると想像できますか？ 具体的に書き出してください。

【Q2：学芸員視点による価値の再定義】

（AIワーク2：作品への「文脈（コンテキスト）」付与を受けて）

美術史や社会課題、あるいはあなたの原体験と紐付けられた、作品の解説文（キャプション）のドラフトを読んでください。

- その文章の中で、単なる「上手な絵」という枠を超えて、作品が「社会や歴史と接続された価値ある存在」へと昇華したと感じた一節はどこですか？

- 「学芸員の審美眼」によって付与されたアカデミックな視点を知ったあと、あなたは自分の作品が、鑑賞者にとってどのような「新しい世界の窓」になると感じましたか？ あなた自身の言葉で、その深まった「意味」を語り直してください。

【Q3：理想の未来と社会への貢献】

（AIワーク3：「翻訳」による共感の設計を受けて）

専門的なこだわりを、一般のファンが「凄い！」と直感的に共感できるストーリーへ翻訳した結果を確認してください。

- 専門的な価値を誰にでも伝わる形に「翻訳」して届けることで、あなたは鑑賞者の日常にどのような「感動」や「内省のきっかけ」を提供していますか？

- あなたが作品の「構造」と「文脈」を言語化し、プロのアーティストとして自立することは、アートを必要としている社会に対してどのような「精神的な豊かさ」をもたらすと確信していますか？ 自分が稼ぐことの先にある、作品を通じた社会への貢献を記述してください。

【本日のプロフェッショナル宣言】

風茜の教えと本日の内省を経て、あなたがプロとして一生守り抜くと決めた信念を清書してください。

「私は、学芸員視点の（ ）を磨き、自らの表現を通じて（ ）という論理的な価値を社会に証明し続けることを誓います」